

会報一月号 子供「武士道」後編

目次

- ・ 義（公義）
- ・ 勇
- ・ 仁
- ・ 礼
- ・ 誠（信）
- ・ 名誉
- ・ 忠義
- ・ 克己
- ・ 慮（智）

今回は、子供「武士道」の後編です。「忠義、克己、智」の三つを一緒に学んでいきましょう。参考にしているのは、新渡戸稲造「武士道」です。
前回と前々回の復習から入りましょう。

一、義（公義）

- ・ 義とは、人として正しいこと。正しい道。必ず持つべき心。
- ・ 自分の損得より正義(道理)。全体のために、長期的・多面的・本質的に考える。
- ・ 正しさと、相手への思いやりを両方考えて、「中（進歩・発展）」へ進む。

二、勇

- ・ 正しいこと、やるべきことが分かるのが「義」、それを行動に移すのが「勇」。
- ・ 勇とは、気力が強く勇ましい心、思い切りが良い態度。
- ・ 行為の奥には義があること。
- ・ できない時は、大人に助けを求め。そもそも物事というのは、自ら踏み込んだ方が簡単に片付くもの。

三、仁

- ・ 仁とは、相手を思いやる心。受け入れる心。許す心。大切に思うこと。
- ・ 仁は、人の上に立てば立つほど必要。強い人ほど譲る心が必要。
- ・ 仁とは、万物を生成化育する徳。

四、礼

- ・ 礼は仁の心を形にしたもの。礼は愛。
- ・ 悲しみも喜びも分け合い、相手を思いやる気持ちを形に現したものの。
- ・ 礼は、社会の営みを円滑にするルールを形にしたもの。
- ・ 尊敬する気持ちを表すこと。
- ・ 礼は自分を大切にすること。
- ・ 克己復礼。
- ・ 他に人がいない自分ひとりの時、自分自身に対する礼（仁）を無くしていないか。

五、誠（信）

- ・ 武士に「二言(前に言ったことを否定したり、全然違うことを言うこと)」はない。
- ・ 誠とは、約束を守ること。言ったことを立派にやり遂げること。
- ・ 誠とは、本当のこと。
- ・ 誠とは、自分との約束を守ること。
- ・ 我欲や私利私欲や誤魔化すことをしない心。素直で真面目な心。
- ・ 誠の人の言葉には力がある。
- ・ 三省↓人の気持ちになって真剣に考えたか、友達に対して嘘をつかなかったか、よく知らないことを適当に人に話さなかったか。
- ・ 「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり（中庸）」

六、名誉

- ・ 名誉とは、評判がいいこと、有名なこと、世の中や周囲から尊敬されること。
- ・ 名誉とは自分の心の中にあるもの。自分が誇らしくなることをすること。
- ・ 何より名誉が大切。名誉の反対は「恥」。
- ・ 恥ずかしくなるようなことはしないこと。我慢や忍耐も大切。
- ・ 恥とは、人から笑われるのではなく、自分との約束を守らないこと、自分に与えられた役割をきちんと果たさないこと。
- ・ 結果が誇り、名誉ではなく、「努力を怠らなかつたあなた」が皆の誇り。

ここまでの六つの徳をまとめると、「義（人としての正しさ）」を「勇」気を出して行う。これが人としての行動の原則。その中で「仁（相手への思いやり）」を忘れないこと。その仁義を形にしたものが「礼」。礼（仁義）を尽くすのが「誠」。そこ

に「名誉」が生まれる。

今回は「忠義、克己、智」の三つです。

七、忠義、忠孝…個人よりも公を重んじる

①基礎

・忠義とは、愛している人や組織、地域、国、世界を大切に思う気持ちです。
・公とは、自分個人のことではなく、世の中や他人に関わることです。家の中ではなく、外のことです。公の反対が私(個人)です。

・目上の人やリーダーや学校や地域社会や国に、真心を込めて仕えることです。
・なぜ自分よりも公を大事にするのでしょうか。自分が生きていられるのは、大自
然の摂理や環境や世界や国や地域や組織や多くの人々に支えられているからです。

・頼っている学校の評判が悪かったらどう思いますか? ↓嫌だと思ふ気持ちがある
なら、それが忠義です。学校を愛し、大切にしているということですよ。

・父母は、親子であり家族なので「公」ではなく「私」です。子供が親を敬い、親しみ、
大切に思う気持ちは、忠義ではなく「孝(親孝行)」といいます。

②応用

・一所懸命↓今、自分のいる場所を大切にすることを教えます。

・忠孝両全↓「忠」は家の外、「孝」は家の中という違いはありますが、どちらも
人間の真心から生まれるものです。孝行ができるならば、忠義も尽くせるはずという
教えます。

・諫める↓リーダーの命令を守るだけでなく、もしリーダーが間違っていたら、そ
れを正す意見も言うことです。リーダーや全体のことを考えて行動することが忠義な
のです。

③実践

・団体戦では、チーム全体のことを考えて自分の態度を明確にします。自分が活躍
できればいいという考えは忠義ではなく、我欲です。

・仲間が頑張っているなら、全力で応援することが忠義です。

④発展

・自分にとって大切なものは何ですか。自分の命よりも大切だというものはありま
すか。お父さんお母さんは、自分の命よりも大切なものをもっています。それは「あ
なた」のことです。

・自分の家を大切に思っていますか。家を綺麗にしていますか。お部屋は綺麗にし
ていますか。

八、克己…喜怒を色にあらわさず。

①基礎

・いつも正しい判断ができるように、強い意志を以て喜怒哀楽をあまり顔には出さないようにコントロールします

・表情は基本的には微笑みを以て明るい態度でいます。

・克己心とは、我欲(臆病\怠惰\傲慢)を抑え、不平不満を言わずに耐えることです。悲しみや辛さを表に出さないことが原則です。なぜ悲しみや辛さを顔に出さないようにするのでしょうか。それは、生き抜かなければならない真剣な場所で辛い顔をしていたら、仲間を心配させてしまうからです。それでは皆で生き抜くことはできません。では、どんな顔をすれば良いのでしょうか。微笑んで明るく振る舞います。微笑みは、苦しくて辛い時でも、心のバランスを取るためのものなのです。自分の感情をコントロールできるようになれば、穏やかな気持ちでいられ、物事を正しく判断できるようになります。平常心で物事を判断できるようになります。

ただ、家族や友達の前では、喜びは素直に表すことも大切です。天邪鬼になってはいけません。本当に辛くて苦しい時、悲しい時は、まず家族のところにいきましょう。ひとりにならないことが大切です。

②応用

・「武士は食わねど高楊枝」↓いつもお腹いっぱい食べるのは、却って心を弱くしてしまいます。美味しいごはんを食べるには、まず体を動かしてお腹を空かせることです。そして、腹八分目で箸を置きます。お腹を空かしても、すぐに不平不満や泣き言を言っはなりません。

・「富めるは智に害あり」↓強くあれば様々なことに余裕がでてきます。余裕

(富)があれば、人は優しくなれます。自分に余裕がない時、人に優しくなれるかどうかは、その人の信念や心の強さ次第です。

・我欲を去ると大きくなれる↓全体のことを考える。自分の考えと違ってても、グループ全体にとって何が一番良いかを考える必要がある。

③実践

・みなさんが喜怒哀楽を顔に出さなくても、ママは全部お見通し↓親御さんの愛の中で生きていることの証です。

・ひとりで寂しいとき、どう我慢しますか↓心がくじけそうになった時は、歯を食いしばって拳を固めて：と、あの気合の入れ方を思い出してください。心が落ち着いたら、どうすべきか考えてみましょう。

・冷静にならずに人を傷つけてしまい、却って後悔してしまった↓相手を許す大きな心も必要です。

④発展

・ただし、克己の修養はその度を超しやすいう問題点もあります。行き過ぎてしまつては、考えも生活も窮屈になってしまつて、明るく元気に澆刺として生活していくことができなくなつてしまいます。頑固になつて、却つて友達への思いやり

(仁)に欠ける言動になりやすいのです。そういう事態に陥るのは、「何の為の克己

か」を忘れてしまうことから引き起こされます。「何の為の克己なのでしょうか」。それは、状況や感情に流されずに、己の仁義を尽くすためです。仁義の尽くし方を誤らないため、適切な判断を下すために平常心が要求され、その心を養うために克己が要求されるのです。

どんなに素晴らしいものであっても、限度が過ぎればその悪い面が出て偽物になります。あらゆるものは善悪の両方を持っていることを思い出してください。ですから、私たちひとりひとりの個性においても、良い点を認めて、良い点の理想を追求するようにならなければなりません。

・辛さや悲しみは克服できるのでしよか↓外見は冷たく厳しく(義・礼・克己)見えても、その内側は温かい心(仁)なのです。落ち着いた振る舞いや平常心は、どんなことがあっても乱されるべきではないという信念があるからこそ、喜怒哀楽の感情をあまり外に顕さないのです。だからといって、心まで鈍感だったり冷酷だったりするわけでは決してないのです。状況に流されず、あくまでも、相手への思いやり(仁)と、自分のやるべきこと(義)を成し遂げるための正しい判断を下すためであり、自分の尊厳を保ち、相手に失礼の無いように心がけるからこそその克己なのです。

外に顕す感情を抑制して静かな微笑みを返し、己の仁・義を礼・勇を以て実践していく。このような態度が、多くの言葉よりも人の真心を正しく伝え、道理に順って成すべきことを為していくことができると思います。

九、慮(智)……己を以て人をはかる勿れ

①基礎

・慮(りよ、おもんばかり)とは、周りの状況等をよく考えることです。
・長期的、多面的、根源的に考えを巡らすことです。「思」よりも、もっと頭と心を使って考えることです。相手にどんな事情が考えられるだろうか、考えを巡らせることです。良し悪しを簡単に決めつけずに、相手の気持ちや状況を少しでも考えることです。

・自分もこうだから、相手もこうだろうと簡単に考えてはいけません。直ぐに白黒付けようとして自分の考えや価値観を押し付けてはいけません。相手の状況や気持ちを汲み取る必要があります。軽はずみな判断をしてはいけません。

・虜とは、ものの見方を変えることです。どんな物事であっても、例外なく絶対に良いということも、絶対に悪いということもない場合が多いのです。

②応用

・善意に解せよ↓人の行動を、何か企みがあるのでは？意地悪でやっているのでは？と考えるのではなく、きつと何か理由があるんだろうな、と思えば腹の立つことは少なくなります。世の中には正しいことと正しくないことの区別が曖昧なことが沢山あります。見方を変えれば、領けることが増えるはずですよ。

・「遠きを慮らなければ、必ず近きに憂いあり」↓遠くのこと(未来、あの人の

人)まで考えて身の回りの事に気を配らなければ、必ず近くのこと(すぐ、身近)に問題が起こることになりますよ。今さえ良ければよいと思っていると、思わぬところか困ったことが起こることになるので、少し先のことまで気を配りましょう。また、時間をかけて、物事に取り組むことが大切ということでもあります。時々立ち止まって、やるべきことを考えてみるのが大切です。例えば、一か月の初めに「今月の目標」を立てて、月末になったら、どんな風に取り組んできたかを振り返ってみる習慣をつけることもいいかもしれません。

・「或るひと曰く、徳を以て怨みに報ゆれば何如と。子曰く、何を以てか徳に報いん。直を以て怨みに報い、徳を以て徳に報いよと(論語)」↓悪に報いるには正義をもってし、徳(善)に報いるには徳(善、恩徳)をもってせよ。

・「恨みに報いるに徳を以てす(老子)」↓怨みに報いるに怨みを以てしたならば、怨みの止むことはありません。怨みを止めるには、古い恨みを根にもたず、大きくおらかに考えます。「優雅な生活が最良の復讐である」↓優雅な生活を送ることが一番の復讐になるという教えです。

③実践

- ・電車やバスにお年寄りが乗ってきたら↓人見知りしてしまって何もできないのは、↓みんな家族だよ。微笑みを以て明るく誠実に礼儀正しく接すれば大丈夫。
- ・友達に本を貸したら二週間経っても返ってこないときは？
- ・マラソン大会をサポートして遊んでいる友達には？

④発展

・正しいだけではダメなのか↓強いだけ、優しいだけではなく、カッコいいか、美しいかを考えてみてください。

まとめ

多種多様な価値観が並存する今日、「少年武士道の九徳」は、子供たちにとっても、以前子供だった私たちにとっても、示唆するところは小さくないと思います。これら九つの徳目は、理解したら終わりというものではありません。どんなに優れた人であっても、油断して我欲(臆病・怠惰・傲慢・稚心：こ)が出れば、これら九徳(本心)は心の奥底に沈んでしまうからです。「我欲の方が九徳(本心)よりも強いだろうか、こんな教えは無意味だ」と言うでしょうか。それは、コップ一杯の水で火事が消せないからと言って、「水より火が強い」と言うのと同じです。しかし、それは心得違いです。

「吾、日に三度わが身を省みる(三省)」と論語にあるように、一日に何度も我欲を斬り去って本心に立ち返り、本心を以て人生を歩む努力をする、それを克己復礼と言ひ、修行と言います。油断すれば、また我欲に心は曇らされるので、三省して克己復礼していく修行は死ぬまで続きます。だからこそ、人は死ぬまで成長し続けることができ。やがて火よりも水の力大きくなって火を消すことができるのです。これが修

行の意義です。人間の真価というのは、何ができるか、何を知っているかではなく、まず「どんな人間であるか」なのです。

では、みなさんはどんな大人になればいいのでしょうか。「君子(くんし)」を目指してください。それは、強くて優しく優しくて皆から信頼される、二十一世紀に生きる武士です。例えるなら「太陽のような人」です。太陽は、とてつもなく大きくて、万物を育む明るさと温かさというエネルギーを地上に与え続けています。また、太陽系の中心にあって、惑星たちを仲間として引き付け調和させながら、皆を照らし続けています。そんな太陽みたいな人になってください。

みなさんの中には、プロスポーツ選手、恐竜博士、ユーチューバー、会社員、総理大臣になる等、将来の職業を夢に描いている人もいます。今日から、その夢に「君子」や「太陽のような」を追加してください。「君子の(太陽のような)プロスポーツ選手、君子の(太陽のような)ユーチューバー、君子の(太陽のような)弁護士、君子の(太陽のような)お笑い芸人、君子(太陽のような)農家、君子(太陽のような)社長、君子(太陽のような)パティシエ：」です。

そもそも職業とは、お金を稼いで生活する手段でもありますが、その本義は「拠って以て仁を為す(職業を通じて社会の進歩発展に貢献すること)」にあります。

この人間の真価と職業の本義を踏まえると、人類全体の志は何でしょうか。それは、「ひとりひとりがその個性を発揮して、お互いを尊重して助け合い支え合い、皆で協力して平和で豊かな世界をつくって、お互いを幸せにして生きていくこと」です。そのためには、あらゆる業界にひとりでも多くの「君子」が、つまり、君子のあなた達が絶対必要なのです。あなた達ひとりひとりが社会に参加し、個性を発揮しながら自分の役割を全うすることで所属している業界を引っ張り、各業界が繋がって心を一つにして、お互いに助け合い支え合いながら進歩成長していくことが、人類共通の志にとって不可欠なのです。そして健全な成長を遂げる社会とは、科学技術や物質文明の発展を、君子の精神で支えて発展していく社会なのです。精神で支えるとは、技術や物の使い方を大自然の摂理や道理と調和させていくということです。

私たち大人は、子供たちに背中語りながら、「人が人として生きることの美しさ、気高さ」を示すことが大切です。尊敬できる大人たちが沢山いるというのは、子供たちにとって素晴らしい環境なのです。

それでは、今年も健康と健闘を。改めて、本年も宜しくお願い致します。

<p>【礼】 ・仁義の心を形にしたもの ・共に喜び、共に悲しむ ・機嫌良くいる</p>	<p>【誠/信】 ・言ったことを成し遂げる→武士に二言はない ・すぐに取り掛かる</p>	<p>【名誉】 ⇔ 恥 己の役割を果たし、自分を誇らしく思う心 廉恥心</p>
<p>【仁】 造化の始まり→人を思いやる/許す/受け入れる心</p>	<p>子供武士道 目的: 君子たれ</p>	<p>【忠義/忠孝】 所属の場/組織を一番に考え、自分は二番</p>
<p>【勇】 義を行う→勿論、正しいと思っただ行動が全て良い結果になるとは限らない</p>	<p>【義/公義】 正しいこと→勿論、正しいと思っただ行動が全て良い結果になるとは限らない</p>	<p>【克己】 【智/慮】 ・異心→本心へ立ち返る ・己を以て人をはかるな</p>